

せんだい ゼロカーボン 市民会議

報告書



開催趣旨

近年、地球温暖化を一因とする気候変動とその影響により、世界中で平均気温の上昇や豪雨・干ばつなどの自然災害が発生しています。2023年には仙台市でも、夏の平均気温が過去最高を記録するなど、地球温暖化が市民生活に与える影響はますます大きくなっています。

本市では喫緊の課題である地球温暖化対策等に率先して取り組むため、2021年3月に「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、取り組みを進めてきました。その実現に向けては、市民の皆様へ脱炭素を「自分ごと」として捉え、日常生活の中で自ら取り組んでいただくことが重要です。

「せんだいゼロカーボン市民会議」は、ゼロカーボンシティの実現のために何ができるのか、どうすれば行動が広がるのかを市民ひとりひとりの立場から考えていただく場として、無作為で選出された市民の皆様にお集まりいただき、5回にわたって開催しました。

会議の目的

せんだいゼロカーボン市民会議では、「脱炭素に向けてひとりひとりができること」と「行動を広めていくための手法」の2つを市民の目線で検討し、提案していただくことを目的としました。

提案1

脱炭素に向けて
ひとりひとりが
できること

提案2

行動を広めて
いくための手法



実施概要

参加者

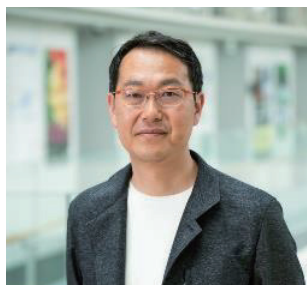
本市の人口統計に合わせた年代・性別・居住区となるよう、16歳以上の3,000人を無作為で抽出し、開催の案内を送付しました。参加希望のお返事を頂いた68名の中から仙台市の人口構成に近づくよう、年代・性別・居住区を考慮して抽選で選んだ50名に、市内の大学生10名を加えた60名を会議の参加者としてしました。また、参加者の方には謝礼として1回あたり3,000円分のクオカードをお渡ししました。

全体スケジュール

開催回	日時	内容	会場
第1回	9月30日(土) 13:30~16:30	オリエンテーション 地球温暖化・脱炭素の仕組みを学ぶ	二日町第五仮庁舎 (オンワード樫山仙台ビル) 10階ホール
第2回	10月15日(日) 13:30~16:30	さまざまな分野での温暖化防止・ 脱炭素を考え、関心がある分野を選ぶ	二日町第五仮庁舎 (オンワード樫山仙台ビル) 10階ホール
第3回	11月26日(日) 13:30~16:30	グループワーク1回目 ・効果的なアクションを考える ・提案テーマの仮決め	東京エレクトロンホール宮城 (宮城県民会館) 601大会議室
第4回	12月10日(日) 13:30~16:30	グループワーク2回目 ・提案テーマの絞り込み、ブラッシュアップ ・発表準備	東京エレクトロンホール宮城 (宮城県民会館) 601大会議室
第5回	1月21日(日) 13:30~17:00	グループワークの成果発表・まとめ	二日町第五仮庁舎 (オンワード樫山仙台ビル) 10階ホール

支援体制

講師



(公財)地球環境戦略機関
プログラムディレクター / 藤野純一さん

東京大学大学院工学系研究科博士学位取得。2000年国立環境研究所入所。「脱炭素先行地域」評価委員会(座長代理)やアジアの国や都市の脱炭素化・SDGs実施に関与(SDG17)。主著書に「低炭素社会に向けた12の方策」(日刊工業新聞社)、「マンガでわかる脱炭素(カーボンニュートラル)」(池田書店)等。

地球温暖化対策に関する情報提供

会議の前半では、今後の議論に向け、(公財)地球環境戦略機関のプログラムディレクター、藤野純一さんをお招きし、地球温暖化の仕組みや対策の必要性について講義をいただきました。「本当に地球は温暖化しているのか?」といったそもそもの疑問から、取り組むべき対策まで幅広くお話をいただきました。

また、話し合いを進めていく中で出てきた疑問等には、ストップ温暖化センターみやぎ((公財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク)の推進委員の皆さんが、アドバイスをを行い、効果的な対策の検討を支援しました。

サポート
講師

(公財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク MELON

小幡秀樹さん、川村真貴さん、早川昌子さん、三品茂子さん、吉田美緒さん



全体ファシリテーター



まちづくりアドバイザー、
ファシリテーター / 遠藤智栄さん

大学卒業後、雑誌の企画編集や農山漁村の活性化のコンサルティング、NPOの中間支援等の仕事を経て、共創でのソーシャル・デザイン、地域づくり、防災復興支援、人材育成、組織開発、政策への市民参画などのテーマで活動。仙台市杜の都の環境をつくる審議会委員、地域社会デザイン・ラボ代表、防災士。

プログラムデザイン・全体の進行

地域で活躍するファシリテーターの遠藤智栄さんに、プログラムデザインのアドバイスをいただくとともに、当日は全体のファシリテーターとして、議論の促進に向けた場づくりをしていただきました。

グループディスカッションの支援

テーマごとのチームに分かれた市民の話し合いでは、ファシリテーターが支援を行いました。各ファシリテーターは、普段から市民活動支援や環境、アート、ファシリテーション、福祉などの分野でファシリテーターの役割を担っている経験豊富なメンバーです。参加者同士の相互理解の促進からテーマについてのアイデア・意見出しや深めることを支援し、合意形成を促しました。

グループ
ファシリテーター

青木ユカリさん、佐藤由紀子さん、清水千佳さん、
鈴木美紀子さん、真壁さおりさん ※五十音順

第1回 せんだいゼロカーボン市民会議

日時 9月30日(土) 13:30~16:30

会場 二日町第五仮庁舎(オンワード樫山仙台ビル) 10階ホール

参加人数 参加者/50名、傍聴者/5名

プログラム

時間	プログラム
13:30~13:35	開会
13:35~13:45	市長からのメッセージ
13:45~13:50	会議の目的などのご案内
13:50~14:05	グループワーク(自己紹介など)
14:05~15:35	気候変動についての情報提供&グループでの話し合い
15:35~16:10	グループワーク(感想・質問)
16:10~16:25	ふりかえり
16:25~16:30	次回について

講義内容

第1回は、今後の議論に向けて、まずは地球温暖化の仕組や地球温暖化対策の必要性について、参加者の皆さんにご理解いただくことを目的に開催しました。

冒頭に市長から、地球温暖化を取り巻く動向や、本市の取組について紹介しながら、この市民会議に期待すること等をお話しさせていただきました。続いて事務局からの説明で、会議の目的や進め方を確認したあと、参加者の皆さんにはグループに分かれていただき、自己紹介や、ご自身の生活の振り返りを行っていただきました。

次の気候変動に関する情報提供のパートでは、(公財)地球環境戦略機関のプログラムディレクター、藤野純一さんから、「本当に地球は温暖化しているのか?」、「なぜ温暖化しているのか?」、「なぜ温暖化すると困るのか?」、「温暖化を防ぐにはどうすればよいか?」、という4つのテーマで講義を行っていただきました。講義の間にはグループワークの時間を設け、参加者のみなさん同士で感想や質問をシェアしていただきました。

活発な議論が行われ、「仮にしっかり対策をすれば気温は下がるか、異常気象は防げるのか?」、「温暖化によるメリットもあるのではないか」といったご意見、ご質問や、「深く知ることができて勉強になった」、「幅広い年代の方と議論ができて良かった」といった感想が寄せられました。

当日の様子



市長からのメッセージ



事務局説明



全体ファシリテーター遠藤智栄さん



藤野純一さんの講義



グループワークの様子1

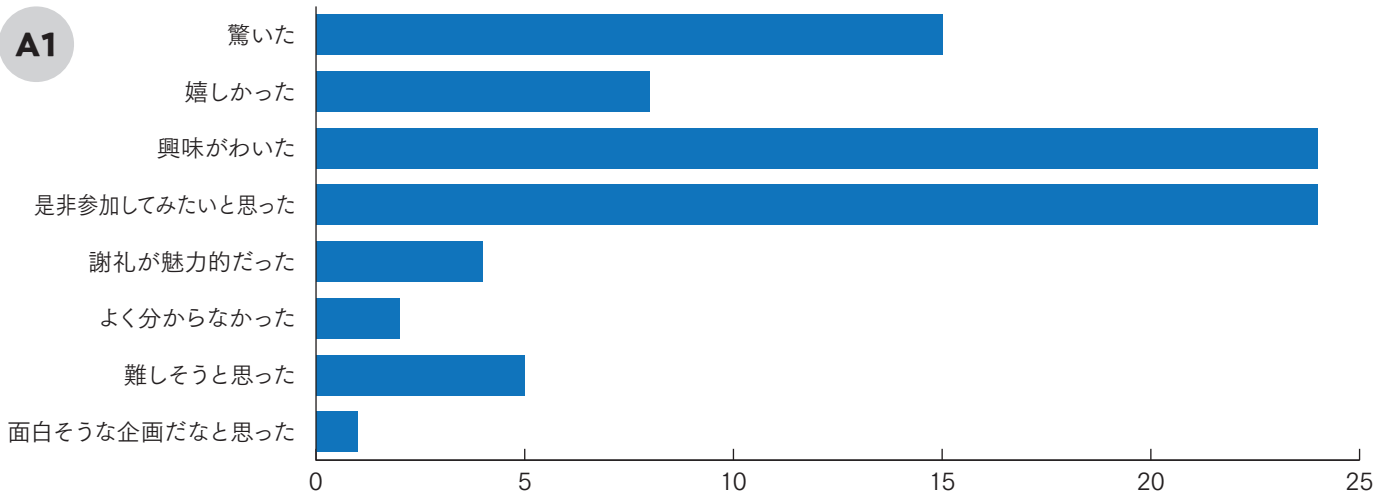


グループワークの様子2

アンケート

Q1 今回、せんだいゼロカーボン市民会議のご案内が届いてどう感じましたか？

A1



Q2 参加してみようと思った理由を教えてください。(抜粋)

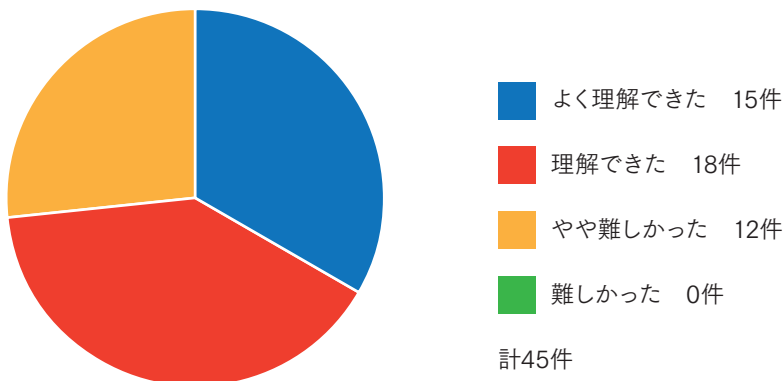
A2

- ・カーボンニュートラルに興味があり、大好きな仙台のためにできることはやってみたいと思ったから。
- ・一般市民のゼロカーボンに対する意識を知りたかったから。
- ・大学の授業でも触れるような機会があったので新たに知れる機会だと思い、大変興味を持ったから。
- ・授業などでは地球温暖化について触れていたが、具体的に自分ができる対策や仕組みがよく分からなかったので地球温暖化について自分に出来ることがあれば取り組みたいと思ったから。
- ・少しでも力になれば、と思ったから。
- ・このような会議に参加しない限りしっかり考える機会がないと思ったから。

など

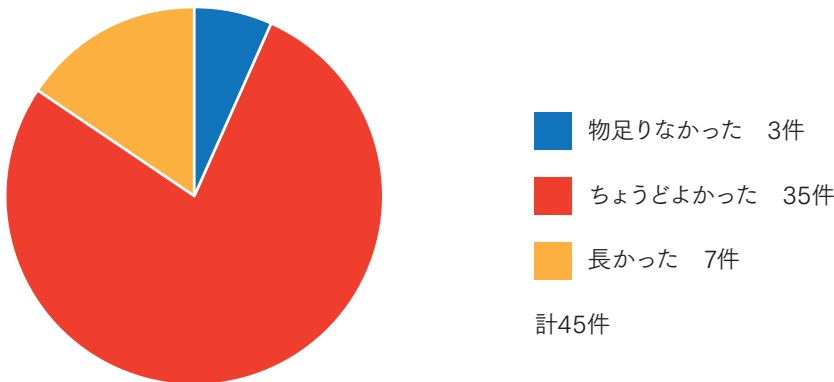
Q3 講義の内容はいかがでしたか。

A3



Q4 時間配分はいかがでしたか。

A4



Q5 実際に参加してみていかがでしたか。感想を自由に教えてください。(抜粋)

A5

- ・真剣に環境問題を考える良いきっかけになった。仙台市でも内窓補助金、コンポスト補助金など良い取り組みが多いのに周知があまりされていないと感じた。今後も参加し、勉強したい。
- ・様々な世代の市民の方の意見をお聞きすることは、研究ではできない経験なので、新鮮な気持ちで、かつ有意義な時間を過ごすことができた。
- ・勉強になった。他の人の意見を聞いたのも、貴重な体験だった。会議に費用時間を使わず迅速に行動に進んでほしい、とも思ったが、会議を通じて行動への支持がうまれるならいいのかな、とも思った。

など

Q6 その他、会議全体を通してご意見などあれば教えてください。(抜粋)

A6

- ・参加者が仙台市の縮図になっているということだったが、30代40代の中間層が少ないように感じた。
- ・難しい内容も多かったと思うので、もう少し噛み砕いた説明だとわかりやすいと感じた。
- ・仙台市のゼロカーボンに対する取り組みを予めまとめておいて欲しかった。
- ・たくさんの方々に地球温暖化のシステムや、お金がかかるものから、かからないものまで様々な対策方法を知ってもらう必要があると感じた。

など

第2回 せんだいゼロカーボン市民会議

日時 10月15日(日) 13:30~16:30

会場 二日町第五仮庁舎(オンワード樫山仙台ビル) 10階ホール

参加人数 参加者/42名、傍聴者/1名

プログラム

時間	プログラム
13:30~13:35	開会・オリエンテーション
13:35~13:45	第1回のふりかえり
13:45~14:00	グループワーク(自己紹介・前回のふりかえりなど)
14:00~14:10	仙台市から情報提供
14:10~16:05	講義 ①家の中での脱炭素 ②人・モノの移動での脱炭素 ③外出先での脱炭素
16:05~16:20	ふりかえり・全体共有
16:20~16:30	次回について、そのほか情報共有

講義内容

第2回は、地球温暖化対策の取組について理解していただくことを目的に開催しました。

最初に、(公財)地球環境戦略機関の藤野純一さんから前回の会議のおさらいとして、温暖化のメカニズムや対策などについて、お話していただきました。事務局からは、第1回の会議で参加者の皆さんからいただいたご質問に対するフィードバックを行いました。

その後、「家の中での脱炭素」、「外出先での脱炭素」、「人・モノの移動での脱炭素」の3つのテーマで、藤野さんから講義をいただいたうえで、それぞれのテーマごとに「自分(仙台市民)」、「企業・団体」、「自治体・仙台市」、「地球・未来」は何に取り組むべきかをグループで議論していただきました。

今回は、より皆さんの生活に近い場面での取り組みを考えていただく時間となり、参加者の皆さんからは「家に帰ってすぐ取り組めるものも多いと気づいた」、「様々な世代からのアイデアがとても興味深かった」などといった声が寄せられました。

最後に3つのテーマの中から、より学びや議論を深めたいものをひとつ選んでいただきました。

ワークシート

自分(仙台市民)、企業・団体は何に取り組むべきか

①家の中での脱炭素

自分(仙台市民)

サーキュレータを
活用する

シャワーを
節水タイプにする

窓に断熱シート
(プチプチ)を貼る

電子レンジで
料理する

省エネ家電に
買い換える

ソーラーパネルの
設置

企業・団体

燃費の悪い車の
販売を中止する

CO2排出量を
可視化できる
システム作り

書類の電子化
紙の削減

公共交通機関や
自転車を
積極的に活用

24時間営業を
廃止する

自動販売機を
削減

②人・モノの移動での脱炭素

自分(仙台市民)

公共交通機関を
積極的に利用する

自転車を有効活用

電気自動車を購入

宅配ボックス設置
(再配達防止)

買い物は近所の
スーパーを利用

車を使わず
徒歩で移動する

企業・団体

高速料金の値上げ

車を利用しなくても
買い物ができる
まちづくり

ソーラーカーの
開発・実用化

電気自動車の
充電SPOTを
拡充

過疎地や
高齢者宅への
ドローン配達

置き配利用の促進
(安価にするなど)

③外出先での脱炭素

自分(仙台市民)

使い捨て容器の
利用量削減

外出先でのゴミは
持ち帰って分別

環境負荷が少ない
商品を選んで購入

地産旬食

水筒やエコバッグ
などを持ち運ぶ

お勤め品を買って
食品ロス削減

企業・団体

公共交通機関
利用者に割引

季節に応じて
就労時間を変更

一人ひとりの
消費電力を可視化

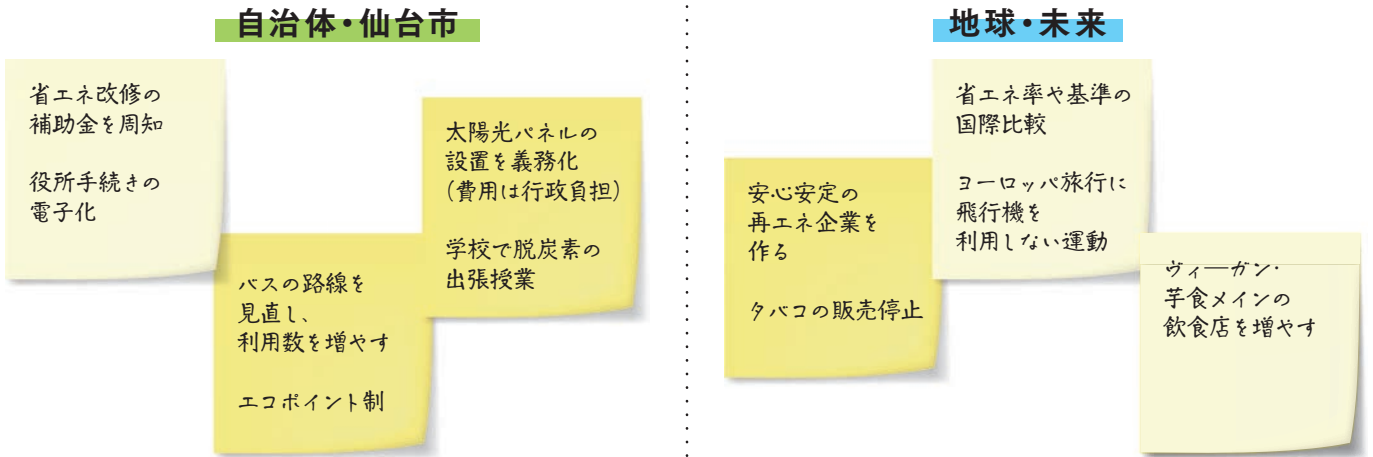
飲食店の
持ち帰り制度を
義務化する

駐輪場の拡充

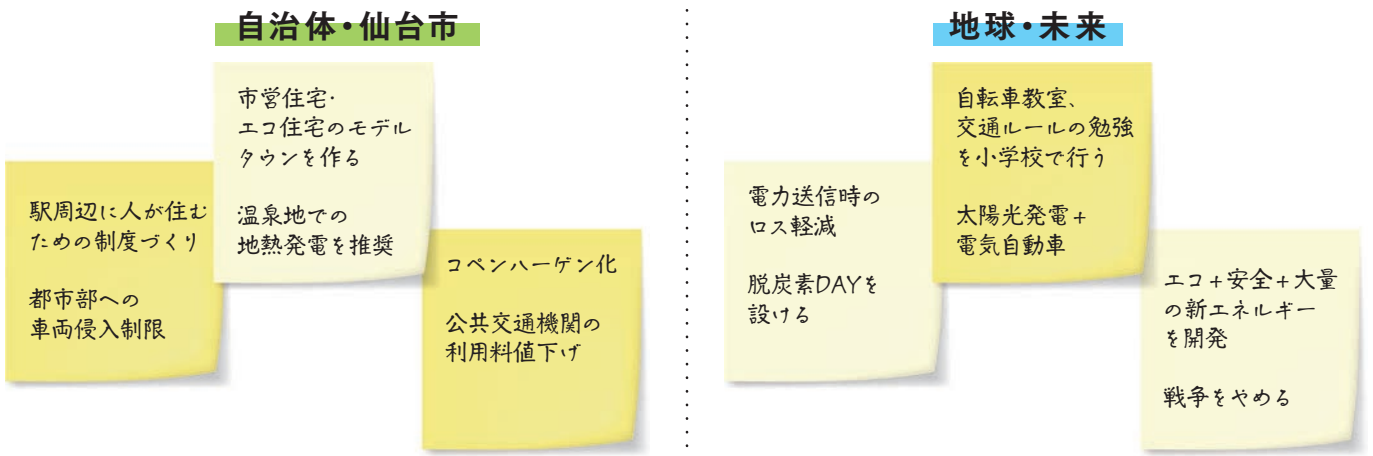
車以外で
通勤する人に
交通費支給

自治体・仙台市、地球・未来は何に取り組むべきか

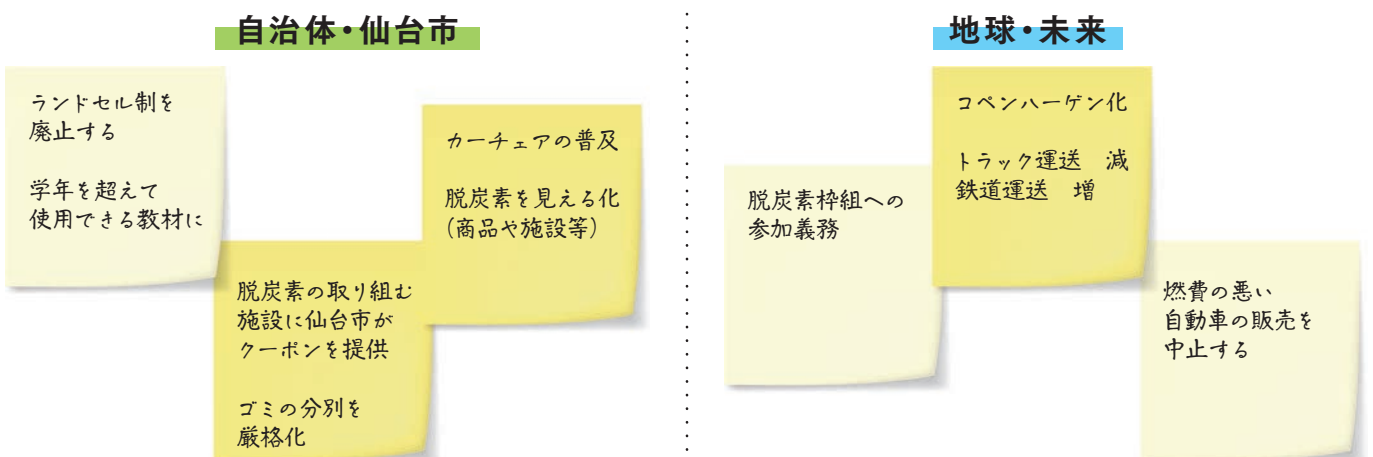
①家の中での脱炭素



②人・モノの移動での脱炭素



③外出先での脱炭素



当日の様子



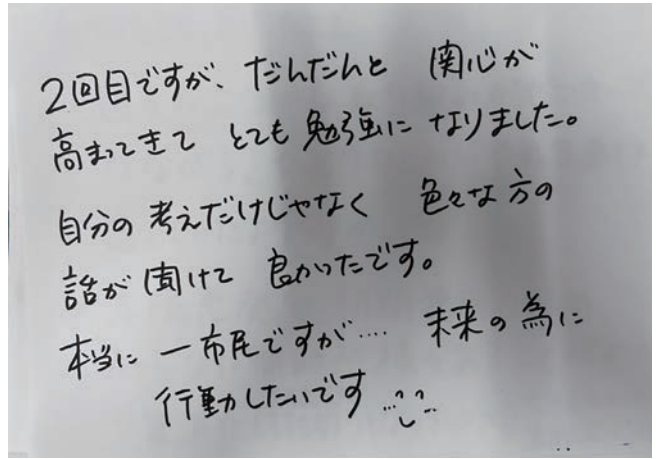
藤野さんの講義



グループワークの様子1



グループワークの様子2

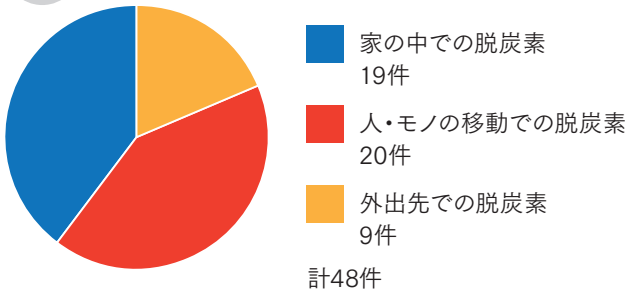


参加者からの声

アンケート

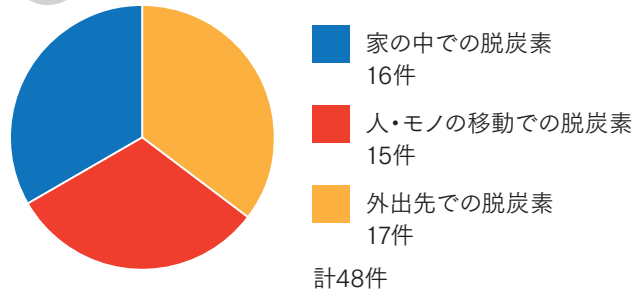
Q1 希望するテーマを教えてください。
(第1希望)

A1



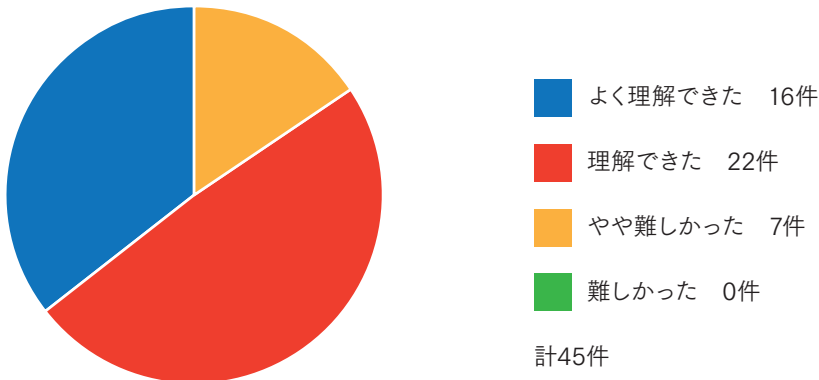
Q2 希望するテーマを教えてください。
(第2希望)

A2



Q3 講義の内容はいかがでしたか。

A3



Q4 実際に参加してみていかがでしたか。感想を自由に教えてください。(抜粋)

A4

- ・毎回目から鱗の学びがあり、このような機会を設けてくださり本当にありがたかった。参加者個々のアイデアを付箋で貼ってディスカッションして、という時間が楽しかった。次回もぜひ楽しみにしたい。
- ・全体でゼロカーボンへの取り組みを進めるためにはある程度分かりやすく温暖化への理解を深めていただくことが必要だと思った。また、コミュニケーションの輪を広げられたり、楽しんで取り組めるものを考えたりできたらいいと思った。
- ・色々な方のお話しが聞けてとても勉強になった。皆さんとても考えがしっかりしていて素晴らしく、自分もしっかりしなくてはと思った。これからも楽しみに参加したい。
- ・若い人達と話しあって知識が豊富で感心した。踏み込んだ講話を聞いてよかった。

など

第3回 せんだいゼロカーボン市民会議

日時 11月26日(日) 13:30～16:30

会場 東京エレクトロンホール宮城(宮城県民会館) 601大会議室

参加人数 参加者/42名、傍聴者/2名

プログラム

時間	プログラム
13:30～13:40	開会、オリエンテーション
13:40～14:25	グループワーク ○自己紹介 ○今までのふりかえり ○前回までのアイデアの共有と追加
14:25～14:40	講義・情報提供 ○何が市民のアクションを妨げているか ○どんな仕掛けや仕組みがあると市民のアクションが増えるか
14:40～15:00	グループワーク ○話し合い(提案テーマの仮決め)
15:00～15:10	休憩
15:10～15:50	グループワーク ○他のテーマを考えてみよう ○提案テーマの整理・選択
15:50～16:10	全体共有 ○グループごとの提案テーマの紹介
16:10～16:25	ふりかえり
16:25～16:30	次回の案内

グループワーク内容

第3回は、前回までに学んだ「家の中での脱炭素」、「外出先での脱炭素」、「人・モノの移動での脱炭素」の3つのテーマの中からご自身の興味があるテーマを選び、グループに分かれて「脱炭素に向けてどんなアクションが効果的か」を考えていただきました。

「市民のゼロカーボン行動を妨げているのは何か」、「どんな仕組みや仕掛けがあれば市民の行動が変わるか」という2つの視点について、実施する主体や手段等も含めて、各グループをサポートするグループファシリテーターと一緒に検討・議論を進めていただきました。

また、会場には「ストップ温暖化センターみやぎ((公財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク)の推進委員4名の方々にお越しいただき、参加者のみなさんに様々なアドバイスをしてくださいました。

会議の終わりには、各グループで出た意見の中から、提案したいアクションの項目を2つにしぼって、発表していただきました。

検討・議論

1. 市民のゼロカーボン行動を妨げているのは何だろう? (抜粋)

- ・知識不足(分別を正しくできない、何をしたらいいのかわからない、温暖化についての知識も)
- ・ゼロカーボンの知識が少なく周りの人もやっていない
- ・脱炭素に係る行動へのフィードバック(結果・効果・貢献度)が見えづらい⇒モチベーション上がらない
- ・家庭内でゼロカーボンについての意識が少ないもしくは無い
- ・自分の行動が逆のマイナス効果になることがあり、慎重になる
- ・値段、やる気、手間、コスト
- ・自分がやらなくても誰かがやってくれる
- ・自分1人の行動で変わらないと思ってしまう

など

2. 市民の行動が変わるにはどんな仕組みや仕掛けがあるといいだろう? (抜粋)

- ・節約ポイント(電気代)orクーポンがもらえる
- ・広報(行政)を機会あるごとに
- ・アプリや端末などを活用してCO₂排出量を可視化する
- ・徒歩や自転車でしか味わえない楽しさを発信する
- ・県民表彰制度を確立する
- ・マイカー出勤を辞めたら1日お昼を出すなど、ポイントや何かメリットを設ける
- ・数値目標を行動目標に変換させる

など

各グループの仮テーマ

グループ A	エネルギー消費削減	ゴミ・フードロス・削減・リサイクル
グループ B	脱炭素の情報・効果を いかに知っていただくか	断熱・リフォームいかに お得にするか・できるか
グループ C	自治会主体の脱炭素の 取組みを推進しよう	『おしゃれ×脱炭素』で”クールな暮らし” をブランディングしよう
グループ D	歩いて暮らせるまちづくり	自転車利用の促進
グループ E	啓発を推進し、意識変容を促す	ゼロカーボンに向けた 様々な情報を見える化する
グループ F	『再配達ゼロの街』 置き配・代引き・宅配BOX	『車の無駄遣いゼロの街』 自転車の積極利用等
グループ G	企業・団体 × 制度・仕組づくり	教育機関×ワークショップ等
グループ H	社会的ロス (食料・衣料等)の削減	移動・移送の見直し

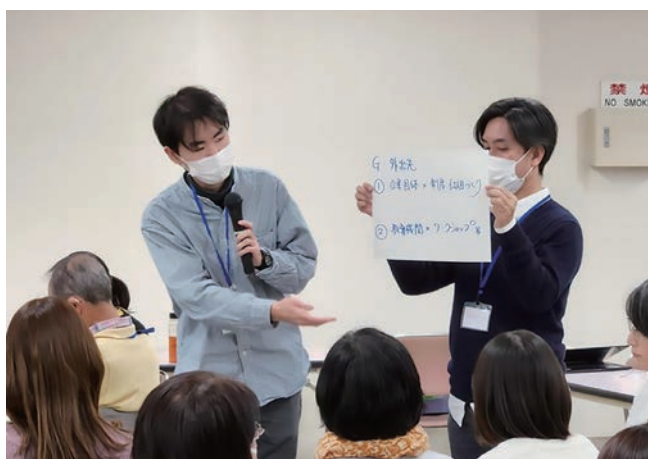
当日の様子



グループワークの様子1



グループワークの様子2



提案発表の様子



ストップ温暖化センターみやぎからのアドバイス

第4回 せんだいゼロカーボン市民会議

日時 12月10日(土) 13:30~16:30

会場 東京エレクトロンホール宮城(宮城県民会館) 601大会議室

参加人数 参加者/38名、傍聴者/1名

プログラム

時間	プログラム
13:30~13:40	開会、オリエンテーション
13:40~15:00	グループワーク① ○前回の振り返り、今回の進め方 ○提案テーマをひとつに絞る
15:00~15:10	休憩
15:10~16:10	グループワーク② ○次回の役割分担を決める ○発表をまとめる
16:10~16:20	ふりかえり
16:20~16:25	次回の案内

グループワーク内容

第4回は、次回(最終回)でのプレゼンテーションに向けて、各グループの提案を具体的に検討し、発表資料の準備を進めていただきました。

最初に、前回各グループが提案した2つのゼロカーボンアクションから最終回で発表する1つのアクションを選んだ後、具体的な内容や、市民、自治体、企業等といった様々な主体の役割、またそのアクションを広めるための効果的な手法や期待する効果についてグループで議論を深め、言語化を進めました。

どのグループも、グループファシリテーターのサポートを受けながら、発表資料の完成に向けてみなさんで協力して作業を進めていらっしゃいました。

また、今回の会議でも、前回同様、「ストップ温暖化センターみやぎ((公財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク)から推進委員3名の方々にお越しいただき、参加者のみなさんに様々なアドバイスをいただきました。

各グループの提案テーマ

グループ A

SENDAI星空のページェント

～ひとりからできる みんなでできる
エネルギー削減～

グループ B

プチプチ大作戦

ーいかに断熱・リフォームを
効果的にできるか？

グループ C

『おしゃれ×脱炭素』で

”クールな暮らし”を
ブランディングしよう

グループ D

自転車から始まる町づくり

ーのりものをうまく使い分けて
便利な暮らしにー

グループ E

人・モノの移動に関する情報や
取組の見える化でゼロアクションを応援する

～みらいん仙台～

グループ F

再配達ゼロの街

グループ G

**お得！
ゼロカーボンな仕組みづくり**

～私も企業も自治体も…～

グループ H

社会的ロスの削減

(食品関連を例に)

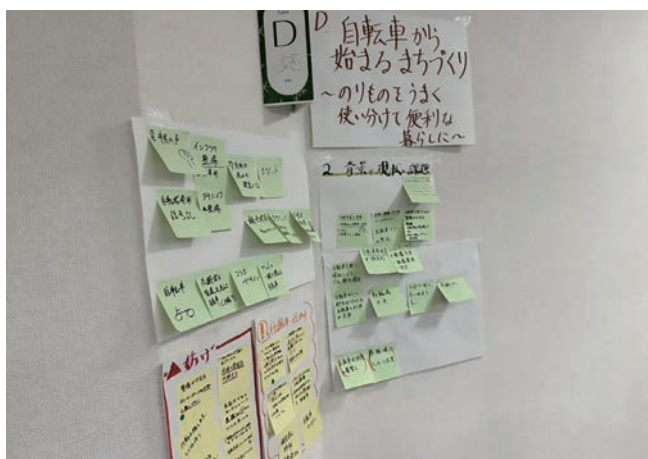
当日の様子



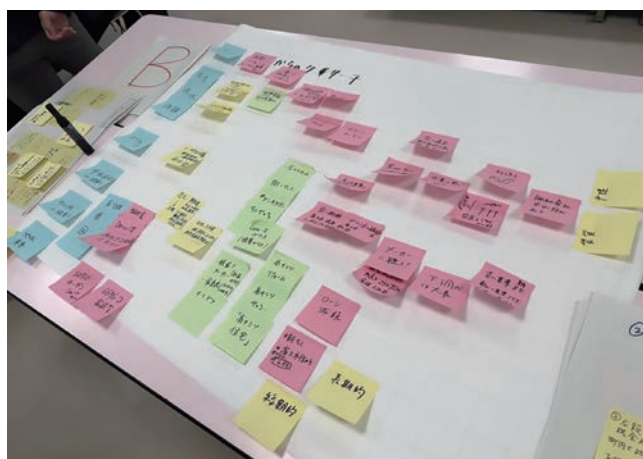
グループワークの様子1



グループワークの様子2



ディスカッションボード1



ディスカッションボード2



提案テーマの共有

第5回 せんだいゼロカーボン市民会議

日時 1月21日(日) 13:30～17:00

会場 二日町第五仮庁舎(オンワード樫山仙台ビル) 10階ホール

参加人数 参加者/38名、傍聴者/8名

プログラム

時間	プログラム
13:30～14:00	グループワーク（発表に向けた最終準備）
14:00～14:15	開会・オリエンテーション
14:15～14:55	グループ発表①（くじ引きの順番で前半4グループが発表）
14:55～15:10	ゲストからの講評①
15:10～15:20	休憩 ※前半グループへのコメントを貼り出し
15:20～16:00	グループ発表②（くじ引きの順番で後半4グループが発表）
16:00～16:15	ゲストからの講評②
16:15～16:25	会場からのコメント紹介
16:25～16:40	全体講評・記念撮影
16:40～16:50	ふりかえり
16:50～17:00	事務連絡・閉会

成果について

最終回となった第5回では、これまでの会議で学び、議論した成果として、参加者の皆さんがとりまとめた脱炭素に向けた取組について、グループごとに発表を行っていただきました。

「家庭での脱炭素」、「人・モノの移動での脱炭素」、「外出先での脱炭素」それぞれのテーマに分かれ、合計8グループから発表があり、どのグループからも、市民ならではの視点での問題提起やアイデアが光る、脱炭素行動を提案していただきました。

当日は仙台市長も参加し、皆さんの発表を聴かせていただいたほか、第1回、第2回の会議で情報提供をしてくださった地球環境戦略機関の藤野純一さんもゲストとしてお招きし、講評をいただきました。

また、参加者の皆さんにも、他のグループの発表に対する感想や意見をコメントボードに貼り出していただき、参加者同士でシェアする時間を設けました。さらに、会場で傍聴いただいた見学者の方々や、第3回、第4回でグループワークをサポートくださったグループファシリテーターの皆さんからも感想をいただきました。

最後に、参加してくださった皆さんで記念撮影をし、全5回の振り返りを行って終了となりました。

各グループの提案テーマ

家の中での脱炭素

SENDAI星空のページェント ～ひとりからできる みんなでできる エネルギー削減～

グループ A

市民だけでなく、企業や自治体も参加する取り組みとして、どんな人にも負担をかけず節電を進めるきっかけづくり「1時間、家の明かりを消す”SENDAI星空ページェント”」の実施を提案しました。

ゼロカーボンの行動を妨げているものが様々存在する

意識・知識不足 ・具体的に何をしたらいいの？ ・あまり意味がないのでは？	金銭的障壁 ・そんな余裕はない… ・購入する機会がない
--	-----------------------------------

↓

どんな人にも負担をかけず
ゼロカーボンに繋がるきっかけづくりが必要

現在の課題 | 社会的な背景 | 具体的な行動

どんな人にも負担をかけず
節電を進めるきっかけづくりを提案

SENDAI 星空のページェント

「1時間、家の明かりを消す。」
その時間、ろうそくで過ごし、
できるだけ照明の使用を控える。
(例、みんなで1つの部屋の照明だけで過ごす)

現在の課題 | 社会的な背景 | 具体的な行動

プチプチ大作戦 ～いかに断熱・リフォームを効果的にできるか？

グループ B

家庭からのCO2排出のうち、2～3割が冷暖房からの排出であることに注目しました。断熱性の低い住宅では、冷暖房の使用が多くなるため、一戸建ての住宅では断熱リフォームを、賃貸住宅ではプチプチを活用した断熱性向上の取り組みを提案しました。

現状と課題

一般的な住宅の熱が出入りする割合の例

屋根 11%	窓 25%	壁 11%	床 7%	換気 2%	基礎 1%	合計 58%
--------	-------	-------	------	-------	-------	--------

断熱性能の高い新築やリフォームをこれから行う必要がある

断熱の出入りはほとんどが窓
→窓を中心とした断熱が効果的

具体的な行動

戸建て 断熱リフォーム（窓、床、壁、屋根） 一重窓、複層ガラス 断熱性能の高い窓気密を伴うことで4倍の断熱効果 樹脂サッシ 樹脂は熱を伝えにくい	賃貸 プチプチ 窓にプチプチを貼ると室温が数度UP! 断熱マット 床下の断熱性向上 プチプチの中の空気が熱を遮断
--	--

補助金の活用
e.g.) せんだい「健康」補助金、県や国の補助金

『おしゃれ×脱炭素』で ”クールな暮らし”をブランディングしよう

グループ C

脱炭素の取り組みが理解できなかつたり、取り組む時間がないというネガティブなイメージを、「おしゃれでクールな暮らし」なイメージへと変えていくため、①パンフレットやSNS、仙台市のWebサイトでの情報発信による広報活動と、②イメージアップの手法として、脱炭素に対する取り組みを表彰したり、インフルエンサーと協働したり、コストのメリットを提示したり、アートを融合させたりするなどの具体的手法を提案しました。

01 課題

取り組み方が分からない
時間がない
脱炭素の取り組みはおしゃれ！

脱炭素の取り組み方が分からなかつたり、取り組む時間がないというマイナスなイメージが蔓延している

マイナスなイメージを「おしゃれでクールな暮らし」へとイメージアップさせるにはどうしたらいいか？

02 具体的な行動の内容

①様々な手段を用いた広報活動 例)パンフレット SNS 市のホームページ	②イメージUP作戦 例) 表彰 インフルエンサーとの協働 コストリリットの提供 アートとの融合
---	---

自転車から始まる町づくり ーのりものをうまく使い分けて便利な暮らしにー

グループ D

自動車移動によるCO2の増加に対して、自転車の利用促進を進めるために、市民、自治体、企業のそれぞれの役割を整理し、「①交通ルールを周知するために、大人向けの自転車教室を開催する、②自分が乗りたい自転車のアイデアを出す、③レンタルサイクルの増設と地下鉄の車両の一部をサイクルトレインにする、④仙台七夕まつりをゼロカーボンスタイルで開催するために、イベント時の自家用車などの市街地への乗り入れを規制する。」といった4点の具体的なアクションを提案しました。

背景や現状と課題

- ・ 自転車を使うための整備が不十分
- ・ 自転車マナーの悪化とルールが知られていない
- ・ 攻が多い地区は高齢者が自転車を使いづらい
- ・ 行動に移しづらい雰囲気
- ・ つい楽な方法をとってしまう
- ・ 楽しかった、得した経験
- ・ 自動車中心の都市利用のため、自転車の利用が不便
- ・ 自動車台数の増加によるCO2の排出増加
- ・ コミュニバイクの整備不良と配備範囲の限定
- ・ 地下鉄の利用が少ない



具体的な行動の内容

- ・ 交通ルールを周知するために、大人向けの自転車教室を開催
- ・ (世代によって好みが変わるので)自分が乗りたい自転車のアイデアを出す
- ・ レンタルサイクルの増設と地下鉄の車両の一部をサイクルトレインにする
- ・ 仙台七夕まつりをゼロカーボンスタイルで開催するために、イベント時の自家用車等の市街地への乗り入れを規制する



人・モノの移動での脱炭素

人・モノの移動に関する情報や取組の見える化で ゼロアクションを応援する～みらいん仙台～

グループ E

脱炭素の情報と取り組みを可視化するために、市民が理解し、楽しみながら実践できるプランとして、「①公共交通機関とEV車の活用推進、②市民への“超”積極的な広報活動の実施、③スマホアプリ機能の効果的な活用。」以上の3つを提案しました。アクションを拡散する広報施策として、テーマソングやPRキャラクターの制作も提案しました。

背景や現状と課題

- 自分達の行動とカーボンが結びつかない
- ゼロカーボンの副産物的効果が理解されていない
- 行動のメリット・デメリットが見えない (選択ができない)
- 他人の行動(アクション)が見えない
- 具体的にできることが分からない
- 国や地方自治体の施策が見えない



情報と取組の見える化！

市民が理解し、楽しく、実践できる施策！！

ゆるキャラ“みらいん”君



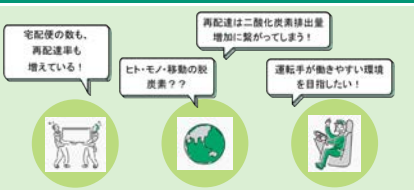
仙台市非公認
ゼロカーボン推進担当
キャラクター
“みらいん”君

再配達ゼロの街

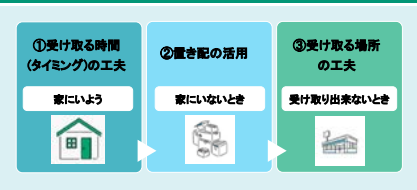
グループ F

再配達が気候変動にとどまらない社会問題になっていることに着目し、「再配達ゼロの街」を目指すために、「①受け取る時間(タイミング)の工夫、②置き配の活用、③受け取る場所の工夫。」を提案しました。その取り組みを広めるための手法として、地域コミュニティ(町内会など)の活用や学校教育を通じた若い世代への啓発活動、PRグッズの制作を提案しました。

背景



具体的な3つの行動(イメージ図)



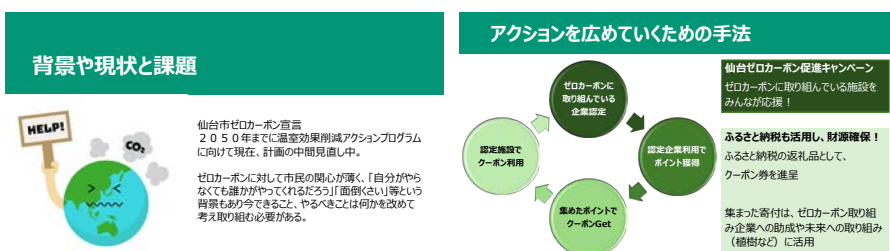
外出先での脱炭素

お得！ゼロカーボンな仕組みづくり ～私も企業も自治体も…～

グループ G

ゼロカーボンの行動が広まらない原因の一つとして、「自分が行わなくても誰かが行ってくれるだろう」や「面倒くさい」といった思考の背景にあります。今、自分たちにできること、すべきことは何かを再考し、積極的に取り組む必要があるという問題提起をしました。

「公共交通推進に向けて、駐車場(コインパーキング)の料金をあげる」「家での入浴を外出先の入浴に切り替える(入浴施設を設けている企業が解放)」「学校・職場・公園にウォーターサーバーを設ける」などの施策を実施し、利用するとポイントを獲得し、クーポンを利用できるなどのメリットがある、「仙台ゼロカーボン促進キャンペーン」のほか、財源としてふるさと納税の利活用も提案しました。



社会的ロスの削減（食品関連を例に）

グループ H

作りすぎ・買いすぎの無駄により、生産・運搬・処分で大量の燃料を消費し、地球温暖化に影響を与えているのではないかとこの着眼点から、余計なCO2を削減するために、食品ロスを例に提案しました。

具体的な対策としては、「購入する際には地産地消を意識し、外出前に自宅の食品在庫を確認する。処分する際には、自身で使い切れない分を他人に譲る、生ごみを肥料にする（※自然に還元する）。といったアクションを提案しました。これらのアクションを広める手段として、市政だよりの活用やSNSなどでの情報発信を提案しました。



全5回を終えて

5回にわたって開催されたせんだいゼロカーボン市民会議は、様々な方にご参加いただき、気候変動について理解を深め、真剣に対策を話し合う場となりました。

参加者の皆さんが会議を通して作り上げた提案は、今後、仙台市の事業や情報発信に活用されます。脱炭素の達成に向けた具体的な行動である「脱炭素に向けてひとりひとりができること」は脱炭素アクションとして広くお知らせし、「行動を広めていくための手法」は今後の仙台市の事業計画や情報発信に活用していきます。



当日の様子



プレゼンテーション最終準備の様子



事務局説明



発表を聞く参加者の皆さん



市長、藤野さんからの講評



見学者からの感想

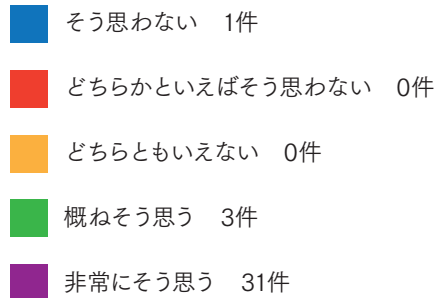
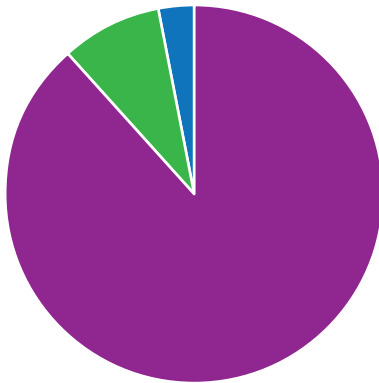


参加者のコメントシェアボード

アンケート

Q1 市民会議に参加して良かったと思いますか？

A1



計35件

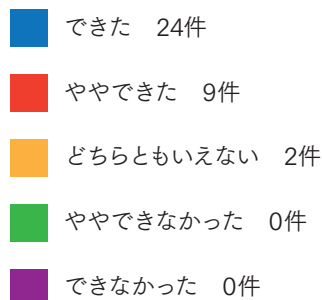
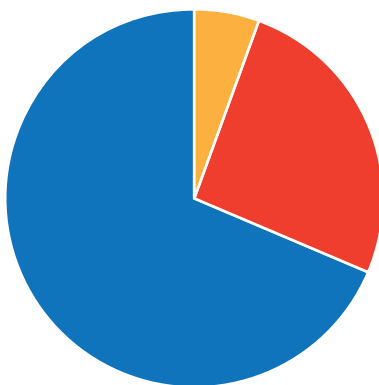
Q1-1 前問について、なぜそのように思ったか教えてください。(抜粋)

A1-1

- ・無作為抽選とは思えないほど全ての発表が出来上がり、各々の市民としてできることが明確になったと感じたから。また色々な世代の方と話し合うことができたから。
 - ・様々な年代の方と脱炭素という同じテーマで議論できる機会は非常に貴重なのと、普段のコミュニティでは出てこないようなアイデアを得ることができたから。
 - ・異なる世代からゼロカーボンに関する意見を聞いたことがとても貴重だったから。また、自己の意識も変えるきっかけになった。
- など

Q2 議論に必要な情報を得ることができましたか？

A2



計35件

Q2-1 前問について、なぜそのように思ったか教えてください。(抜粋)

A2-1

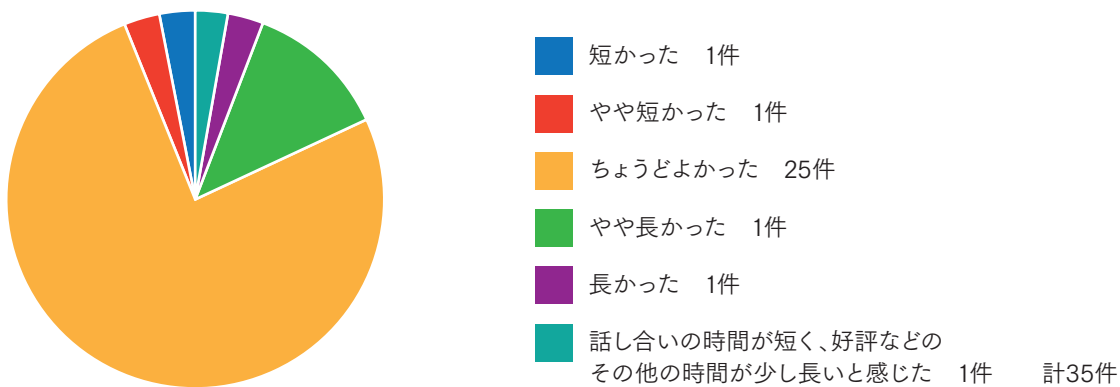
- ・二回に渡る講義に加えて、班ごとのファシリテーターの方からも沢山情報共有があり、情報収集には困らなかったため。
 - ・用意していただいた資料と、他の参加者が紹介してくれた情報が充実していたため。
 - ・地球温暖化やゼロカーボンについて、様々な情報を得ることが出来たから。
- など

Q2-2 地球温暖化に関する情報収集の際に役に立ったホームページ・冊子等があれば教えてください。(抜粋)

- A2-2**
- ・仙台市ホームページ
 - ・環境白書
 - ・リフォーム会社のホームページ
 - ・環境省HP
 - など

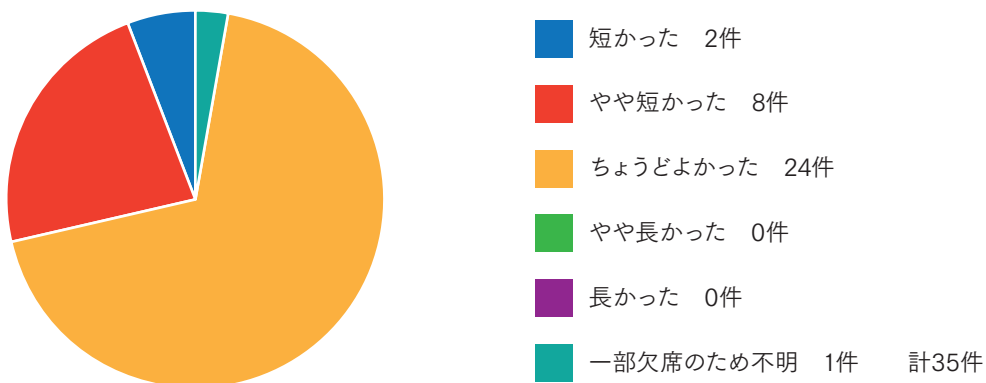
Q3 講義の時間配分(2回×3時間)はいかがでしたか。

A3



Q3-1 グループ討議の時間配分(2回×3時間)はいかがでしたか。

A3-1

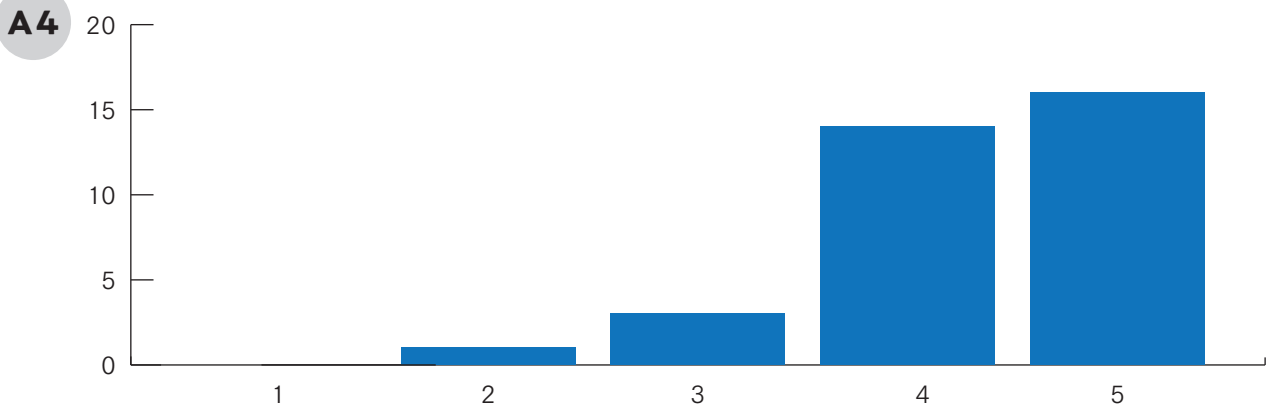


Q3-2 その他、会議スケジュールについてご意見・ご感想があれば教えてください。(抜粋)

A3-2

- ・最後の会議の発表前に、もう少し練習する時間が欲しかった。スライドの修正と原稿を考えるだけで終わってしまい、時間配分の練習ができなかった。
- ・開催期間も月1回ということで通いやすく、またリマインドメールも丁度よくいただけて良かった。
- ・メンバーとの議論の時間はもう少し欲しかった。
- など

Q4 現在の地球温暖化に対する関心度を1~5で教えてください。
(数字が大きいほど関心度が高い)



Q4-1 会議に参加してみて、自分の意識や行動にどのような変化がありましたか？

- A4-1**
- ・脱炭素に対して意識はしていたものの、実行に移せていなかった点が多くあった。参加して、細かな点も意識して行動していこうと思った。
 - ・ゼロカーボンを意識した行動をするようになった一方で、自分1人が取り組んでも仕方ないので周りの人にも声がけるようになった。
 - ・今まで以上に、一人一人ができる行動について意識を向けることができた。仙台ならではの提案も多くあり非常に参考になった。
 - ・ゴミの分別が地球温暖化防止に意味があるということがわかり、以前より意識して行うようになった。
 - ・部屋の無駄な暖房や照明に気づく事が出来ました。
- など

Q4-2 今後自分でもやってみたいと思った
温暖化対策の取組みがあったら教えてください。(抜粋)

- A4-2**
- ・窓にプチプチを貼る。食品ロスを減らす。再配達を行わないよう、配達の日時を指定する。
 - ・星空のページェントはぜひやりたい。
 - ・この会議を企画していただいた市の職員の方、丁寧なスライドやチラシを準備していただき、毎回毎回本当にありがたかった。
 - ・折角、グループで話し合いながら独自の資料を作ったので、皆さんへお知らせする発表時間はもう少し欲しかった。(7分は短かった。)
 - ・わりと成果に懐疑的な気持ちで参加したが、大いに希望、やる気をもたらした。
- など